

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0475300562		
法人名	(株)ウェル		
事業所名	グループホーム なんてん伊在荘	ユニット名	やま風
所在地	仙台市若林区伊在字西田70-3		
自己評価作成日	平成29年3月10日		

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kai gokensaku.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 介護の社会化を進める一万人市民委員会宮城県民の会		
所在地	宮城県仙台市宮城野区榴岡4-2-8 テルウェル仙台ビル2階		
訪問調査日	平成29年3月29日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

なんてん伊在荘では、利用者様やご家族様の思いを大切に、利用者様が生き活きと自分らしく暮らしていけるホーム作りに力を入れております。又、グループホームだけでなく地域の方々のご協力も頂きながら地域全体で利用者様を支えられるようなネットワークが作りに力を入れております。例としては、毎年行う伊在荘の夏祭りでは地域の子供会や民生委員さん高校生ボランティアの方々にご協力を頂き盛大に行っております。地域のボランティアの方々や保育園とも定期的に交流しており、地域に密着したホーム作りを行っております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

3ユニットのホームは地下鉄東西線六丁の目駅から徒歩5分、大型商店が立ち並ぶ利便性の良い場所に在る。ボランティアの来訪・蒲の町中学生とのふれあい・荒巻あおば保育園との交流は入居者の笑顔と元気の源になっている。しかし、地域密着型のホームとして地域での知名度が浸透していなかったことの反省から、看板の設置や町内会との関係性を更に深める努力をしている。家族に本人の様子を月毎のお便りでお知らせしている。微かに香るアロマを焚き心休まる工夫をしたり、季節感あふれる切り絵が壁面いっぱい飾られている。部屋でゆっくり過ごしたい方、歌好きの方の笑顔が見られる等の本人本位の支援をしている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) ○	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) ○
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) ○	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) ○
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) ○	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) ○
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) ○	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12) ○
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) ○	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う ○
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) ○	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う ○
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目:28) ○		

2 自己評価および外部評価結果(詳細)(事業所名 **なんてん伊在荘**)「ユニット名 **やま風** 」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	運営理念を念頭に各ユニットの理念を共有している。利用者が楽しく安心して生活できるよう理念の構築に努めている。	法人の理念・事業所独自の理念を基に、年度初めにユニット毎の理念を見直し共有している。目・気・心・くばりを目指し、みんなで唄って楽しみ、情報を共有して本人の想いを大切に、寄り添うケア等を実践している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	事業所での行事、町内会の行事、保育園児との交流、ボランティアとの交流を通じて地域の方々と交流を深めている。	ホームの夏祭り、町内会の総会出席、秋祭りや市民祭り等で交流している。傾聴・三味線・高校生等のボランティアの来訪、保育園との相互の交流は定着し入居者が笑顔になると共に園児も楽しみにしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	会議や行事、地域での集まりを利用して、呼びかけ・アピールし、いつでも相談できるようにしている。又、地域の中学校や高校の実習の受け入れを行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回開催し、議事録を作成し、会議参加者やご家族へ配布している。又、玄関に掲示し、いつでも閲覧できるようにしている。	ホームからの報告をしたり、地域包括職員のアドバイスから薬局の薬剤師に服薬や認知症の話聞く機会を設けた。地域での認知症の相談拠点としての機能を果たす、会議のあり方を期待したい。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議に出席して頂いたり、地域のケア会議へ出席したりしながら協力体制を築いていけるようにしている。	介護保険の更新時や、生活保護受給者の相談に窓口に出向いている。地域ケア会議に出席し同業者とも交流をしている。市主催の中堅スタッフの研修と、新人スタッフの交流会にも参加している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	事業所のマニュアルや外部研修をもとに勉強会を開いて職員に周知徹底させている。又、拘束になっていないかをユニットを回りチェックしている。	環境委員会の担当スタッフが資料を作成し、持ち回りで講師となり全体会議で勉強している。身体拘束と思われる内容を、職員が気づきをポストイットに記して共有し身体拘束をしないケアを常に意識づけている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	マニュアルや外部研修をもとに勉強会を開き職員に徹底させ、又ユニット内でもお互いに気をつけながらケアしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に関する研修には毎回スタッフを参加させ、知識を得て事業所のスタッフにも共有している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時の契約時に読み合わせを行い、随時疑問点などを聞きながらすすめている。又、契約後もお電話などで質問等を受け付けていることを話している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議の際にご意見をうかがったり、玄関に意見箱を設置し定期的にチェックしている。又、頂いた意見は実際に実行してみながら結果を次回の運営推進会議の際に報告したり、議事録に残している。	運営推進会議や来訪時に、家族の意向を聞き話し合っている。職員の異動や退職に伴う新人職員の紹介がないという複数の意見があり、現状に配慮して玄関に全職員の名前と写真を掲示し反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月リーダー会議を行い、ユニットの意見を聞いている。又、一人一人とコミュニケーションを密にとり、意見が出やすい雰囲気作りをしている。	スタッフ会議は話しやすい雰囲気の中、様々な提案がある。出された意見を抽出し、刻み食からムース食に変更したり、本人に合うおむつの使用に関すること、行事や外食などの楽しみごとに反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	評価シートを使用し、個々のレベルを把握。1対1で面談しながら個々の状態を認識している。又、自己目標を立ててもらい、定期的に振り返りをしながら評価につなげている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	無資格者に対して資格取得(初任者研修)の為にシフトを調整したり、外部の研修にもスタッフが平等に参加できるようにシフトを調整しながら参加してもらっている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	会社での全体研修や交換研修で交流を図りながら情報交換を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の実態調査の際にご本人に直接聞いたり、家族から聞き取りを行って入居後の関係性作りに役立っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の実態調査の際にご本人に直接聞いたり、家族から聞き取りを行って入居後の関係性作りに役立っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前の実態調査にて本人・家族から聞き取りを行った情報をもとにケアプランを作成し、入居当日から施行。短期間で見直しをしながら本人に合ったプランを作成していく。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人のできる事はお願いし、本人の生きがいへつなげている。又、ユニット内でもそれぞれに特異な事を役割として行って頂き、ともに暮らしていることを実感して頂けるよう対応している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ケアプラン作成時にはご家族の意見も取り入れている。又、来所時には利用者の普段の様子を報告し、毎月家族へ本人の様子を手紙にして郵送している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居時は本人のなじみの家具や洋服等を用意して頂き、安心して頂ける環境を作っている。又、ご家族に確認しながら知人との面会や電話連絡の支援を行っている。	ホームの近隣が馴染みの場所でない方も多いが、季節の外出で榴岡天満宮、七夕祭、光のページェント等を見物に出かけている。入居後に馴染みとなった近所の公園で、弁当を食べたり園児と手遊びを楽しんでいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者の関係性や性格を考慮して席に座っていただいたり、時々スタッフが仲介に入りながらコミュニケーションをとって頂いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要に応じて、介護サマリを作成し、転居先の施設や病院へ提供している。又、転居先の施設に訪問したり、病院へお見舞いに時々行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者とのコミュニケーションを重視して、その人らしく生活して頂ける様趣味の支援を行ったりさまざまな行事に本人の状態をみながら参加して頂くことで意向を把握している。	入居時に把握したバックグラウンドや、心身の情報シートを共有し、理念にもある「あなたらしい暮らし」を支援している。表出が困難な方は、反応を見ながら表情から伝わることを理解するように努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時にご家族に協力して頂き基本情報を記入して頂き、それをもとに本人の生活歴や好き嫌いを把握。その後も本人や家族から聞き出したものを付け加えながら情報をより詳しくしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一日をどのように過ごしていたかを日誌等に記入し、小さな変化でも申し送り時に申し送り、共有している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご家族来所時には直近の様子をお話するとともに家族の思いも聞き取り、カンファレンス時に話し合いプラン作成している。	「日誌」「個人別観察記録」「病気とケアの留意事項」等の記録を参考に話し合っている。本人の出来る役割や、穏やかにみんなと仲良く等の家族の意向を取り入れ、4ヵ月毎にケアプランを作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録にはケアプランを反映した記録をしており、モニタリングの際も個人記録を参考に見直ししている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ボランティアの方々の力をお借りしたり、ユニット間でイベントを通して交流したりしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のボランティアの方々の定期的な訪問 屋保育園との交流、中学校の職場体験の受け入れを行ったり、大きなイベント時の協力、廃品回収の協力など、地域との交流を中心に行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医以外でもかかりつけ医との関係が継続できるように支援している。	月2回の往診と家族付き添いで通院する方は半々で、職員付き添いの通院も支援している。受診時家族に本人の状態を口頭で伝え、受診結果は「申し送りノート」に記録し共有している。歯科医の往診もある。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	1週間に1回訪問看護があり、その際に利用者の変化や症状について相談し、アドバイスを頂いている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は病院側と連絡し、本人の情報を提供。状況によっては介護サマリを提出している。入院期間中は定期的にお見舞いに行き、本人の状態について病棟の看護師あるいは医師より説明を頂いている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に重度化や終末期に向けた指針等について説明し、同意を頂いている。	重度化し終末期になっても、ホームで安心して暮らせる体制が整っている。職員は看取りについての勉強をしている。亡くなられる際には家族と職員も掛けつける。これまで複数の看取りを経験している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	内部・外部の研修に参加してもらったり、マニュアルを熟知してもらい、知識を身に付けてもらっている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に避難訓練を行っている。又、運営推進会議や地域の総会の際に協力を呼び掛けている。	夜間想定で3回避難訓練を実施している。消防署指導での指摘は特にないが、未設置の自動火災通報装置は近日中に設置予定である。地域の協力体制は道半ばな点もあるが、努力がみられるので今後期待したい。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の先輩であることを常に意識し、敬意をもって接している。言葉づかいもなれなれしくならないよう気を付けている。又、スタッフ同士で声掛けについてお互いに確認している。	馴れ合いにならない言葉がけと、トイレ誘導や入浴の際にプライバシーを損ねないように配慮している。日々の記録は入居者の気配を感じながら、少し離れたカウンター風のテーブルで記載する配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	選択しやすい声掛けの仕方や、方法を用いて利用者の希望を聞き出したり、外食の際は本人の食べたいものを撰んで食べて頂くようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事は、定時に声掛けするも、本人の体調や気持ち次第では後で摂って頂いたり、日中も過ごしたい場所で過ごして頂き、スタッフが時々様子を見るようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣替えなど、衣類の管理やチェック(季節に合った素材か?など)はさせて頂いているが、その中から利用者を選んでいただき着て頂いている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	栄養のバランス上、献立を他の業者へ依頼しているが、時々フリーの日を作り、利用者の食べたいものをリクエストして頂き、作ったり外食したりしている。	宅配の食材を利用し、フリーメニューの日も取り入れている。誕生日に本人希望のものや、テイクアウトのバイキング等も楽しんでいる。職員、食事作りのボランティア、入居者が一緒に準備や片づけをしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	他業者へバランスのとれた献立を依頼している。配膳に関しては利用者一人一人の摂取量に合わせて量をコントロールし、場合によってはミキサーなど食べやすい形状にして提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	朝と夕はしっかり歯磨き等の口腔ケアを行っている。昼はうがい等で簡単にできるケアを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者それぞれの排泄の間隔、タイミング、トイレサインを把握し、個人に合わせたトイレ誘導を行い、失禁を減らせるよう取り組んでいる。	排泄のパターンを把握し、時間帯を見計らってトイレ誘導することでリハパンから小さめのパッドに改善し、半数強の方は自立している。飲食物の工夫等で出来るだけ薬に頼らず排便出来る支援をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	オリゴ糖や寒天、牛乳を利用し、起床時やおやつに召し上がっていただき、あまり薬に頼らずに排便を促せるようにしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	本人の希望する時間帯を聞き、なるべく希望に合わせて入浴できるようにしている。又、入浴剤を使用し入浴を楽しんでもらえるような演出も心掛けている。	週2～3回の入浴や、足浴、本人の状態によっては清拭の支援をしている。入浴剤で温泉気分を味わったり、歌いながらの入浴を楽しんでいる。職員と1対1で向き合える貴重なひと時でもある。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者一人一人の体調や体力に合わせて休息を取り入れている。日中から夜間への申し送り時は日中の様子や排泄状況等も総合的に申し送りをしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬情を一人一人ファイルしてあり、いつでも最新の情報を提示し、スタッフがいつでも見れるようにしている。又、薬剤師からの注意事項はノートや申し送り等でスタッフ内で共有し、気を付けている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご家族からの情報や本人との会話の中から興味のあること等を探り、余暇の時間に行っている。(習字・歌・塗り絵など)		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	寄る以外は玄関は施錠せずいつでも外に出かけられるようにしている。又、ホームの車を利用してドライブに出かけたり、計画を立てて遠出したり、ご家族の協力ももらって外出したりしている。	テラスで日光浴をしたり、気候の良い時は手作りの松花堂弁当を持参し公園で食べることもある。季節に合わせた外出では、計画を立て法人の大型車両2台でみんなで出かけている。家族とお墓参りに出かける方もいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人の好きなものを買に行き、立替えし、利用料と一緒に請求している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人より希望があった場合にはスタッフがお手伝いしながら家族へ電話をかけたり、家族に確認しながらお友達へ電話やお手紙を出すようにしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	廊下には観覧するよつな掲示物をせず、音が集うリビングに季節感のある飾りつけをしたり、利用者の作品(習字や塗り絵など)を掲示し、会話が弾むようなレイアウトにしている。又、ユニットによってはBGMをオルゴールや唱歌にし、口ずさんだり落ち着いて過ごせる環境作りをしている。	3ユニット共ゆったりしたスペースで、習字や季節の飾りつけがある。廊下には適所に椅子が配置され、さりげなく一人になれる場所でもある。午前中は活動的に、午後から夕方にかけては落ち着いて過ごせるよう配慮している。居室入口に名前が表示されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングだけでなく、廊下や小スペースに椅子やテーブルを用意して時々休めたり、一人になれるような空間を作り使用して頂いている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時になじみの家具や本人が使っていた物、洋服を持って来て頂き、本人の部屋だということがわかるように工夫して頂いている。	嫁入り道具の三点セット・仏壇・お気に入りの赤いソファ等が置かれている。起床後に布団をたたみ、掃除を終えて間もなく夜の就寝の為の布団を敷いてある畳の部屋など、自分らしい佇まいになっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下やトイレ、浴室に手すりをつけたり、歩く場所には障害になるようなものが無いようにし、掃除をまめにし転倒したりしないようにしている。又、居室は本人がわかるように大きい文字で名札を付けている。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0475300562		
法人名	(株)ウェル		
事業所名	グループホーム なんてん伊在荘	ユニット名	せせらぎ
所在地	仙台市若林区伊在字西田70-3		
自己評価作成日	平成29年3月10日		

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 介護の社会化を進める一万人市民委員会宮城県民の会		
所在地	宮城県仙台市宮城野区榴岡4-2-8 テルウェル仙台ビル2階		
訪問調査日	平成29年3月29日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

なんてん伊在荘では、利用者様やご家族様の思いを大切に、利用者様が生き活きと自分らしく暮らしていけるホーム作りに力を入れております。又、グループホームだけでなく地域の方々のご協力も頂きながら地域全体で利用者様を支えられるようなネットワークが作りに力を入れております。例としては、毎年行う伊在荘の夏祭りでは地域の子供会や民生委員さん高校生ボランティアの方々にも協力を頂き盛大に行っております。地域のボランティアの方々や保育園とも定期的に交流しており、地域に密着したホーム作りを行っております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

3ユニットのホームは地下鉄東西線六丁の目駅から徒歩5分、大型商店が立ち並び利便性の良い場所に在る。ボランティアの来訪・蒲の町中学生とのふれあい・荒巻あおば保育園との交流は入居者の笑顔と元気の源になっている。しかし、地域密着型のホームとして地域での知名度が浸透していなかったことの反省から、看板の設置や町内会との関係性を更に深める努力をしている。家族に本人の様子を月毎のお便りで知らせている。微かに香るアロマを焚き心休まる工夫をしたり、季節感あふれる切り絵が壁面いっぱい飾られている。部屋でゆっくり過ごしたい方、歌好きの方の笑顔が見られる等の本人本位の支援をしている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input checked="" type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input checked="" type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

2 自己評価および外部評価結果(詳細)(事業所名 **なんてん伊在荘**)「ユニット名 **せせらぎ** 」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	運営理念を念頭に各ユニットの理念を共有している。利用者が楽しく安心して生活できるよう理念の構築に努めている。	法人の理念・事業所独自の理念を基に、年度初めにユニット毎の理念を見直し共有している。目・気・心・くばりを目指し、みんなで唄って楽しみ、情報を共有して本人の想いを大切に、寄り添うケア等を実践している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	事業所での行事、町内会の行事、保育園児との交流、ボランティアとの交流を通じて地域の方々との交流を深めている。	ホームの夏祭り、町内会の総会出席、秋祭りや市民祭り等で交流している。傾聴・三味線・高校生等のボランティアの来訪、保育園との相互の交流は定着し入居者が笑顔になると共に園児も楽しみにしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	会議や行事、地域での集まりを利用して、呼びかけ・アピールし、いつでも相談できるようにしている。又、地域の中学校や高校の実習の受け入れを行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回開催し、議事録を作成し、会議参加者やご家族へ配布している。又、玄関に掲示し、いつでも閲覧できるようにしている。	ホームからの報告をしたり、地域包括職員のアドバイスから薬局の薬剤師に服薬や認知症の話聞く機会を設けた。地域での認知症の相談拠点としての機能を果たす、会議のあり方を期待したい。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議に出席して頂いたり、地域のケア会議へ出席したりしながら協力体制を築いていけるようにしている。	介護保険の更新時や、生活保護受給者の相談に窓口に向いている。地域ケア会議に出席し同業者とも交流をしている。市主催の中堅スタッフの研修と、新人スタッフの交流会にも参加している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	事業所のマニュアルや外部研修をもとに勉強会を開いて職員に周知徹底させている。又、拘束になっていないかをユニットを回りチェックしている。	環境委員会の担当スタッフが資料を作成し、持ち回りで講師となり全体会議で勉強している。身体拘束と思われる内容を、職員が気づきをポストイットに記して共有し身体拘束をしないケアを常に意識づけている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	マニュアルや外部研修をもとに勉強会を開き職員に徹底させ、又ユニット内でもお互いに気をつけながらケアしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に関する研修には毎回スタッフを参加させ、知識を得て事業所のスタッフにも共有している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時の契約時に読み合わせを行い、随時疑問点などを聞きながらすすめている。又、契約後もお電話などで質問等を受け付けていることを話している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議の際にご意見をうかがったり、玄関に意見箱を設置し定期的にチェックしている。又、頂いた意見は実際に実行してみながら結果を次回の運営推進会議の際に報告したり、議事録に残している。	運営推進会議や来訪時に、家族の意向を聞き話し合っている。職員の異動や退職に伴う新人職員の紹介がないという複数の意見があり、現状に配慮して玄関に全職員の名前と写真を掲示し反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月リーダー会議を行い、ユニットの意見を聞いている。又、一人一人とコミュニケーションを密にとり、意見が出やすい雰囲気作りをしている。	スタッフ会議は話しやすい雰囲気の中、様々な提案がある。出された意見を抽出し、刻み食からムース食に変更したり、本人に合うおむつの使用に関すること、行事や外食などの楽しみごとに反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	評価シートを使用し、個々のレベルを把握。1対1で面談しながら個々の状態を認識している。又、自己目標を立ててもらい、定期的に振り返りをしながら評価につなげている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	無資格者に対して資格取得(初任者研修)の為にシフトを調整したり、外部の研修にもスタッフが平等に参加できるようにシフトを調整しながら参加してもらっている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	会社での全体研修や交換研修で交流を図りながら情報交換を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の実態調査の際にご本人に直接聞いたり、家族から聞き取りを行って入居後の関係性作りに役立っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の実態調査の際にご本人に直接聞いたり、家族から聞き取りを行って入居後の関係性作りに役立っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前の実態調査にて本人・家族から聞き取りを行った情報をもとにケアプランを作成し、入居当日から施行。短期間で見直しをしながら本人に合ったプランを作成していく。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人のできる事はお願いし、本人の生きがいへつなげている。又、ユニット内でもそれぞれに特異な事を役割として行って頂き、ともに暮らしていることを実感して頂けるよう対応している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ケアプラン作成時にはご家族の意見も取り入れている。又、来所時には利用者の普段の様子を報告し、毎月家族へ本人の様子を手紙にして郵送している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居時は本人のなじみの家具や洋服等を用意して頂き、安心して頂ける環境を作っている。又、ご家族に確認しながら知人との面会や電話連絡の支援を行っている。	ホームの近隣が馴染みの場所でない方も多いが、季節の外出で榴岡天満宮、七夕祭、光のページェント等を見物に出かけている。入居後に馴染みとなった近所の公園で、弁当を食べたり園児と手遊びを楽しんでいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者の関係性や性格を考慮して席に座っていただいたり、時々スタッフが仲介に入りながらコミュニケーションをとって頂いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要に応じて、介護サマリを作成し、転居先の施設や病院へ提供している。又、転居先の施設に訪問したり、病院へお見舞いに時々行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者とのコミュニケーションを重視して、その人らしく生活して頂ける様趣味の支援を行ったりさまざまな行事に本人の状態をみながら参加して頂くことで意向を把握している。	入居時に把握したバックグラウンドや、心身の情報シートを共有し、理念にもある「あなたらしい暮らし」を支援している。表出が困難な方は、反応を見ながら表情から伝わることを理解するように努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時にご家族に協力して頂き基本情報を記入して頂き、それをもとに本人の生活歴や好き嫌いを把握。その後も本人や家族から聞き出したものを付け加えながら情報をより詳しくしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一日をどのように過ごしていたかを日誌等に記入し、小さな変化でも申し送り時に申し送り、共有している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご家族来所時には直近の様子をお話するとともに家族の思いも聞き取り、カンファレンス時に話し合いプラン作成している。	「日誌」「個人別観察記録」「病気とケアの留意事項」等の記録を参考に話し合っている。本人の出来る役割や、穏やかにみんなと仲良く等の家族の意向を取り入れ、4ヵ月毎にケアプランを作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録にはケアプランを反映した記録をしており、モニタリングの際も個人記録を参考に見直ししている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ボランティアの方々の力をお借りしたり、ユニット間でイベントを通して交流したりしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のボランティアの方々の定期的な訪問 屋保育園との交流、中学校の職場体験の受け入れを行ったり、大きなイベント時の協力、廃品回収の協力など、地域との交流を中心に行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医以外でもかかりつけ医との関係が継続できるように支援している。	月2回の往診と家族付き添いで通院する方は半々で、職員付き添いの通院も支援している。受診時家族に本人の状態を口頭で伝え、受診結果は「申し送りノート」に記録し共有している。歯科医の往診もある。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	1週間に1回訪問看護があり、その際に利用者の変化や症状について相談し、アドバイスを頂いている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は病院側と連絡し、本人の情報を提供。状況によっては介護サマリを提出している。入院期間中は定期的にお見舞いに行き、本人の状態について病棟の看護師あるいは医師より説明を頂いている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に重度化や終末期に向けた指針等について説明し、同意を頂いている。	重度化し終末期になっても、ホームで安心して暮らせる体制が整っている。職員は看取りについての勉強をしている。亡くなられる際には家族と職員も掛けつける。これまで複数の看取りを経験している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	内部・外部の研修に参加してもらったり、マニュアルを熟知してもらい、知識を身に付けてもらっている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に避難訓練を行っている。又、運営推進会議や地域の総会の際に協力を呼び掛けている。	夜間想定で3回避難訓練を実施している。消防署指導での指摘は特にないが、未設置の自動火災通報装置は近日中に設置予定である。地域の協力体制は道半ばな点もあるが、努力がみられるので今後期待したい。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の先輩であることを常に意識し、敬意をもって接している。言葉づかいもなれなれしくならないよう気を付けている。又、スタッフ同士で声掛けについてお互いに確認している。	馴れ合いにならない言葉がけと、トイレ誘導や入浴の際にプライバシーを損ねないように配慮している。日々の記録は入居者の気配を感じながら、少し離れたカウンター風のテーブルで記載する配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	選択しやすい声掛けの仕方や、方法を用いて利用者の希望を聞き出したり、外食の際は本人の食べたいものを撰んで食べて頂くようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事は、定時に声掛けするも、本人の体調や気持ち次第では後で摂って頂いたり、日中も過ごしたい場所で過ごして頂き、スタッフが時々様子を見るようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣替えなど、衣類の管理やチェック(季節に合った素材か?など)はさせて頂いているが、その中から利用者を選んでいただき着て頂いている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	栄養のバランス上、献立を他の業者へ依頼しているが、時々フリーの日を作り、利用者の食べたいものをリクエストして頂き、作ったり外食したりしている。	宅配の食材を利用し、フリーメニューの日も取り入れている。誕生日に本人希望のものや、テイクアウトのバイキング等も楽しんでいる。職員、食事作りのボランティア、入居者が一緒に準備や片づけをしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	他業者へバランスのとれた献立を依頼している。配膳に関しては利用者一人一人の摂取量に合わせて量をコントロールし、場合によってはミキサーなど食べやすい形状にして提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	朝と夕はしっかり歯磨き等の口腔ケアを行っている。昼はうがい等で簡単にできるケアを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者それぞれの排泄の間隔、タイミング、トイレサインを把握し、個人に合わせたトイレ誘導を行い、失禁を減らせるよう取り組んでいる。	排泄のパターンを把握し、時間帯を見計らってトイレ誘導することでリハパンから小さめのパッドに改善し、半数強の方は自立している。飲食物の工夫等で出来るだけ薬に頼らず排便出来る支援をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	オリゴ糖や寒天、牛乳を利用し、起床時やおやつに召し上がっていただき、あまり薬に頼らずに排便を促せるようにしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	本人の希望する時間帯を聞き、なるべく希望に合わせて入浴できるようにしている。又、入浴剤を使用し入浴を楽しんでもらえるような演出も心掛けている。	週2～3回の入浴や、足浴、本人の状態によっては清拭の支援をしている。入浴剤で温泉気分を味わったり、歌いながらの入浴を楽しんでいる。職員と1対1で向き合える貴重なひと時でもある。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者一人一人の体調や体力に合わせて休息を取り入れている。日中から夜間への申し送り時は日中の様子や排泄状況等も総合的に申し送りをしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬情を一人一人ファイルしてあり、いつでも最新の情報を提示し、スタッフがいつでも見れるようにしている。又、薬剤師からの注意事項はノートや申し送り等でスタッフ内で共有し、気を付けている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご家族からの情報や本人との会話の中から興味のあること等を探り、余暇の時間に行っている。(習字・歌・塗り絵など)		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	寄る以外は玄関は施錠せずいつでも外に出かけられるようにしている。又、ホームの車を利用してドライブに出かけたり、計画を立てて遠出したり、ご家族の協力ももらって外出したりしている。	テラスで日光浴をしたり、気候の良い時は手作りの松花堂弁当を持参し公園で食べることもある。季節に合わせた外出では、計画を立て法人の大型車両2台でみんなで出かけている。家族とお墓参りに出かける方もいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人の好きなものを買に行き、立替えし、利用料と一緒に請求している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人より希望があった場合にはスタッフがお手伝いしながら家族へ電話をかけたり、家族に確認しながらお友達へ電話やお手紙を出すようにしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	廊下には観覧するよつな掲示物をせず、音が集うリビングに季節感のある飾りつけをしたり、利用者の作品(習字や塗り絵など)を掲示し、会話が弾むようなレイアウトにしている。又、ユニットによってはBGMをオルゴールや唱歌にし、口ずさんだり落ち着いて過ごせる環境作りをしている。	3ユニット共ゆったりしたスペースで、習字や季節の飾りつけがある。廊下には適所に椅子が配置され、さりげなく一人になれる場所でもある。午前中は活動的に、午後から夕方にかけては落ち着いて過ごせるよう配慮している。居室入口に名前が表示されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングだけでなく、廊下や小スペースに椅子やテーブルを用意して時々休めたり、一人になれるような空間を作り使用して頂いている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時になじみの家具や本人が使っていた物、洋服を持って来て頂き、本人の部屋だということがわかるように工夫して頂いている。	嫁入り道具の三点セット・仏壇・お気に入りの赤いソファ等が置かれている。起床後に布団をたたみ、掃除を終えて間もなく夜の就寝の為の布団を敷いてある畳の部屋など、自分らしい佇まいになっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下やトイレ、浴室に手すりをつけたり、歩く場所には障害になるようなものが無いようにし、掃除をまめにし転倒したりしないようにしている。又、居室は本人がわかるように大きい文字で名札を付けている。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0475300562		
法人名	(株)ウェル		
事業所名	グループホーム なんてん伊在荘	ユニット名	あお空
所在地	仙台市若林区伊在字西田70-3		
自己評価作成日	平成29年3月10日		

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 介護の社会化を進める一万人市民委員会宮城県民の会		
所在地	宮城県仙台市宮城野区榴岡4-2-8 テルウェル仙台ビル2階		
訪問調査日	平成29年3月29日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

なんてん伊在荘では、利用者様やご家族様の思いを大切に、利用者様が生き活きと自分らしく暮らしていけるホーム作り力を入れております。又、グループホームだけでなく地域の方々のご協力も頂きながら地域全体で利用者様を支えられるようなネットワークが作り力を入れております。例としては、毎年行う伊在荘の夏祭りでは地域の子供会や民生委員さん高校生ボランティアの方々にも協力を頂き盛大に行っております。地域のボランティアの方々や保育園とも定期的に交流しており、地域に密着したホーム作りを行っております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

3ユニットのホームは地下鉄東西線六丁の目駅から徒歩5分、大型商店が立ち並び利便性の良い場所に在る。ボランティアの来訪・蒲の町中学生とのふれあい・荒巻あおば保育園との交流は入居者の笑顔と元気の源になっている。しかし、地域密着型のホームとして地域での知名度が浸透していなかったことの反省から、看板の設置や町内会との関係性を更に深める努力をしている。家族に本人の様子を月毎のお便りで知らせている。微かに香るアロマを焚き心休まる工夫をしたり、季節感あふれる切り絵が壁面いっぱい飾られている。部屋でゆっくり過ごしたい方、歌好きの方の笑顔が見られる等の本人本位の支援をしている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

2 自己評価および外部評価結果(詳細)(事業所名 **なんてん伊在荘**)「ユニット名 **あお空** 」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	運営理念を念頭に各ユニットの理念を共有している。利用者が楽しく安心して生活できるよう理念の構築に努めている。	法人の理念・事業所独自の理念を基に、年度初めにユニット毎の理念を見直し共有している。目・気・心・くばりを目指し、みんなで唄って楽しみ、情報を共有して本人の想いを大切に、寄り添うケア等を実践している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	事業所での行事、町内会の行事、保育園児との交流、ボランティアとの交流を通じて地域の方々との交流を深めている。	ホームの夏祭り、町内会の総会出席、秋祭りや市民祭り等で交流している。傾聴・三味線・高校生等のボランティアの来訪、保育園との相互の交流は定着し入居者が笑顔になると共に園児も楽しみにしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	会議や行事、地域での集まりを利用して、呼びかけ・アピールし、いつでも相談できるようにしている。又、地域の中学校や高校の実習の受け入れを行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回開催し、議事録を作成し、会議参加者やご家族へ配布している。又、玄関に掲示し、いつでも閲覧できるようにしている。	ホームからの報告をしたり、地域包括職員のアドバイスから薬局の薬剤師に服薬や認知症の話聞く機会を設けた。地域での認知症の相談拠点としての機能を果たす、会議のあり方を期待したい。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議に出席して頂いたり、地域のケア会議へ出席したりしながら協力体制を築いていけるようにしている。	介護保険の更新時や、生活保護受給者の相談に窓口に向いている。地域ケア会議に出席し同業者とも交流をしている。市主催の中堅スタッフの研修と、新人スタッフの交流会にも参加している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	事業所のマニュアルや外部研修をもとに勉強会を開いて職員に周知徹底させている。又、拘束になっていないかをユニットを回りチェックしている。	環境委員会の担当スタッフが資料を作成し、持ち回りで講師となり全体会議で勉強している。身体拘束と思われる内容を、職員が気づきをポストイットに記して共有し身体拘束をしないケアを常に意識づけている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	マニュアルや外部研修をもとに勉強会を開き職員に徹底させ、又ユニット内でもお互いに気をつけながらケアしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に関する研修には毎回スタッフを参加させ、知識を得て事業所のスタッフにも共有している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時の契約時に読み合わせを行い、随時疑問点などを聞きながらすすめている。又、契約後もお電話などで質問等を受け付けていることを話している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議の際にご意見をうかがったり、玄関に意見箱を設置し定期的にチェックしている。又、頂いた意見は実際に実行してみながら結果を次回の運営推進会議の際に報告したり、議事録に残している。	運営推進会議や来訪時に、家族の意向を聞き話し合っている。職員の異動や退職に伴う新人職員の紹介がないという複数の意見があり、現状に配慮して玄関に全職員の名前と写真を掲示し反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月リーダー会議を行い、ユニットの意見を聞いている。又、一人一人とコミュニケーションを密にとり、意見が出やすい雰囲気作りをしている。	スタッフ会議は話しやすい雰囲気の中、様々な提案がある。出された意見を抽出し、刻み食からムース食に変更したり、本人に合うおむつの使用に関すること、行事や外食などの楽しみごとに反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	評価シートを使用し、個々のレベルを把握。1対1で面談しながら個々の状態を認識している。又、自己目標を立ててもらい、定期的に振り返りをしながら評価につなげている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	無資格者に対して資格取得(初任者研修)の為にシフトを調整したり、外部の研修にもスタッフが平等に参加できるようにシフトを調整しながら参加してもらっている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	会社での全体研修や交換研修で交流を図りながら情報交換を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の実態調査の際にご本人に直接聞いたり、家族から聞き取りを行って入居後の関係性作りに役立っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の実態調査の際にご本人に直接聞いたり、家族から聞き取りを行って入居後の関係性作りに役立っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前の実態調査にて本人・家族から聞き取りを行った情報をもとにケアプランを作成し、入居当日から施行。短期間で見直しをしながら本人に合ったプランを作成していく。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人のできる事はお願いし、本人の生きがいへつなげている。又、ユニット内でもそれぞれに特異な事を役割として行って頂き、ともに暮らしていることを実感して頂けるよう対応している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ケアプラン作成時にはご家族の意見も取り入れている。又、来所時には利用者の普段の様子を報告し、毎月家族へ本人の様子を手紙にして郵送している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居時は本人のなじみの家具や洋服等を用意して頂き、安心して頂ける環境を作っている。又、ご家族に確認しながら知人との面会や電話連絡の支援を行っている。	ホームの近隣が馴染みの場所でない方も多いが、季節の外出で榴岡天満宮、七夕祭、光のページェント等を見物に出かけている。入居後に馴染みとなった近所の公園で、弁当を食べたり園児と手遊びを楽しんでいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者の関係性や性格を考慮して席に座っていただいたり、時々スタッフが仲介に入りながらコミュニケーションをとって頂いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要に応じて、介護サマリを作成し、転居先の施設や病院へ提供している。又、転居先の施設に訪問したり、病院へお見舞いに時々行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者とのコミュニケーションを重視して、その人らしく生活して頂ける様趣味の支援を行ったりさまざまな行事に本人の状態をみながら参加して頂くことで意向を把握している。	入居時に把握したバックグラウンドや、心身の情報シートを共有し、理念にもある「あなたらしい暮らし」を支援している。表出が困難な方は、反応を見ながら表情から伝わることを理解するように努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時にご家族に協力して頂き基本情報を記入して頂き、それをもとに本人の生活歴や好き嫌いを把握。その後も本人や家族から聞き出したものを付け加えながら情報をより詳しくしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一日をどのように過ごしていたかを日誌等に記入し、小さな変化でも申し送り時に申し送り、共有している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご家族来所時には直近の様子をお話するとともに家族の思いも聞き取り、カンファレンス時に話し合いプラン作成している。	「日誌」「個人別観察記録」「病気とケアの留意事項」等の記録を参考に話し合っている。本人の出来る役割や、穏やかにみんなと仲良く等の家族の意向を取り入れ、4ヵ月毎にケアプランを作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録にはケアプランを反映した記録をしており、モニタリングの際も個人記録を参考に見直ししている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ボランティアの方々の力をお借りしたり、ユニット間でイベントを通して交流したりしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のボランティアの方々の定期的な訪問 屋保育園との交流、中学校の職場体験の受け入れを行ったり、大きなイベント時の協力、廃品回収の協力など、地域との交流を中心に行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医以外でもかかりつけ医との関係が継続できるように支援している。	月2回の往診と家族付き添いで通院する方は半々で、職員付き添いの通院も支援している。受診時家族に本人の状態を口頭で伝え、受診結果は「申し送りノート」に記録し共有している。歯科医の往診もある。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	1週間に1回訪問看護があり、その際に利用者の変化や症状について相談し、アドバイスを頂いている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は病院側と連絡し、本人の情報を提供。状況によっては介護サマリを提出している。入院期間中は定期的にお見舞いに行き、本人の状態について病棟の看護師あるいは医師より説明を頂いている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に重度化や終末期に向けた指針等について説明し、同意を頂いている。	重度化し終末期になっても、ホームで安心して暮らせる体制が整っている。職員は看取りについての勉強をしている。亡くなられる際には家族と職員も掛けつける。これまで複数の看取りを経験している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	内部・外部の研修に参加してもらったり、マニュアルを熟知してもらい、知識を身に付けてもらっている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に避難訓練を行っている。又、運営推進会議や地域の総会の際に協力を呼び掛けている。	夜間想定で3回避難訓練を実施している。消防署指導での指摘は特にないが、未設置の自動火災通報装置は近日中に設置予定である。地域の協力体制は道半ばな点もあるが、努力がみられるので今後期待したい。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の先輩であることを常に意識し、敬意をもって接している。言葉づかいもなれなれしくならないよう気を付けている。又、スタッフ同士で声掛けについてお互いに確認している。	馴れ合いにならない言葉がけと、トイレ誘導や入浴の際にプライバシーを損ねないように配慮している。日々の記録は入居者の気配を感じながら、少し離れたカウンター風のテーブルで記載する配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	選択しやすい声掛けの仕方や、方法を用いて利用者の希望を聞き出したり、外食の際は本人の食べたいものを撰んで食べて頂くようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事は、定時に声掛けするも、本人の体調や気持ち次第では後で摂って頂いたり、日中も過ごしたい場所で過ごして頂き、スタッフが時々様子を見るようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣替えなど、衣類の管理やチェック(季節に合った素材か?など)はさせて頂いているが、その中から利用者を選んでいただき着て頂いている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	栄養のバランス上、献立を他の業者へ依頼しているが、時々フリーの日を作り、利用者の食べたいものをリクエストして頂き、作ったり外食したりしている。	宅配の食材を利用し、フリーメニューの日も取り入れている。誕生日に本人希望のものや、テイクアウトのバイキング等も楽しんでいる。職員、食事作りのボランティア、入居者が一緒に準備や片づけをしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	他業者へバランスのとれた献立を依頼している。配膳に関しては利用者一人一人の摂取量に合わせて量をコントロールし、場合によってはミキサーなど食べやすい形状にして提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	朝と夕はしっかり歯磨き等の口腔ケアを行っている。昼はうがい等で簡単にできるケアを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者それぞれの排泄の間隔、タイミング、トイレサインを把握し、個人に合わせたトイレ誘導を行い、失禁を減らせるよう取り組んでいる。	排泄のパターンを把握し、時間帯を見計らってトイレ誘導することでリハパンから小さめのパッドに改善し、半数強の方は自立している。飲食物の工夫等で出来るだけ薬に頼らず排便出来る支援をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	オリゴ糖や寒天、牛乳を利用し、起床時やおやつに召し上がっていただき、あまり薬に頼らずに排便を促せるようにしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	本人の希望する時間帯を聞き、なるべく希望に合わせて入浴できるようにしている。又、入浴剤を使用し入浴を楽しんでもらえるような演出も心掛けている。	週2～3回の入浴や、足浴、本人の状態によっては清拭の支援をしている。入浴剤で温泉気分を味わったり、歌いながらの入浴を楽しんでいる。職員と1対1で向き合える貴重なひと時でもある。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者一人一人の体調や体力に合わせて休息を取り入れている。日中から夜間への申し送り時は日中の様子や排泄状況等も総合的に申し送りをしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬情を一人一人ファイルしてあり、いつでも最新の情報を提示し、スタッフがいつでも見れるようにしている。又、薬剤師からの注意事項はノートや申し送り等でスタッフ内で共有し、気を付けている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご家族からの情報や本人との会話の中から興味のあること等を探り、余暇の時間に行っている。(習字・歌・塗り絵など)		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	寄る以外は玄関は施錠せずいつでも外に出かけられるようにしている。又、ホームの車を利用してドライブに出かけたり、計画を立てて遠出したり、ご家族の協力ももらって外出したりしている。	テラスで日光浴をしたり、気候の良い時は手作りの松花堂弁当を持参し公園で食べることもある。季節に合わせた外出では、計画を立て法人の大型車両2台でみんなで出かけている。家族とお墓参りに出かける方もいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人の好きなものを買に行き、立替えし、利用料と一緒に請求している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人より希望があった場合にはスタッフがお手伝いしながら家族へ電話をかけたり、家族に確認しながらお友達へ電話やお手紙を出すようにしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	廊下には観覧するよつな掲示物をせず、皆が集うリビングに季節感のある飾りつけをしたり、利用者の作品(習字や塗り絵など)を掲示し、会話が弾むようなレイアウトにしている。又、ユニットによってはBGMをオルゴールや唱歌にし、口ずさんだり落ち着いて過ごせる環境作りをしている。	3ユニット共ゆったりしたスペースで、習字や季節の飾りつけがある。廊下には適所に椅子が配置され、さりげなく一人になれる場所でもある。午前中は活動的に、午後から夕方にかけては落ち着いて過ごせるよう配慮している。居室入口に名前が表示されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングだけでなく、廊下や小スペースに椅子やテーブルを用意して時々休めたり、一人になれるような空間を作り使用して頂いている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時になじみの家具や本人が使っていた物、洋服を持って来て頂き、本人の部屋だということがわかるように工夫して頂いている。	嫁入り道具の三点セット・仏壇・お気に入りの赤いソファ等が置かれている。起床後に布団をたたみ、掃除を終えて間もなく夜の就寝の為の布団を敷いてある畳の部屋など、自分らしい佇まいになっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下やトイレ、浴室に手すりをつけたり、歩く場所には障害になるようなものが無いようにし、掃除をまめにし転倒したりしないようにしている。又、居室は本人がわかるように大きい文字で名札を付けている。		